

EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 2000036873
PUBLICATION DATE : 02-02-00

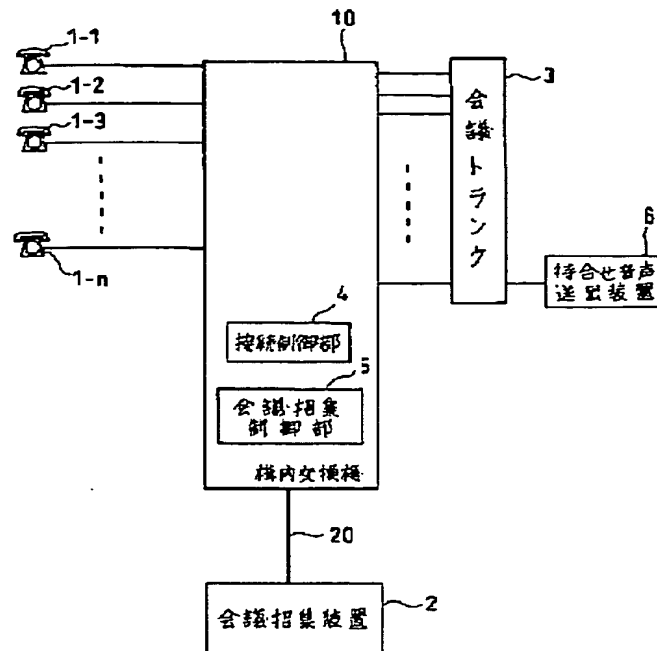
APPLICATION DATE : 17-07-98
APPLICATION NUMBER : 10203598

APPLICANT : NEC ENG LTD;

INVENTOR : MIURA HIDEKI;

INT.CL. : H04M 3/56 H04M 3/42 H04M 3/60

TITLE : CONFERENCE SYSTEM



ABSTRACT : PROBLEM TO BE SOLVED: To realize a conference system with which a conference invitation can be conducted more freely.

SOLUTION: Call numbers of plural telephone sets 1-1-1-n are grouped into one group and registered to a conference inviting device 2 externally and all other telephone sets (telephone sets 1-2-1-n) belonging to the group in response to a call by a specific number from a telephone set (e.g. the telephone set 1-1) belonging to the registered group to allow all telephone sets belonging to the group to make a speech. Persons summoning the conference is freely selected by revising the registration contents to the conference inviting device 2.

COPYRIGHT: (C)2000,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-36873

(P2000-36873A)

(43) 公開日 平成12年2月2日 (2000.2.2)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード* (参考)
H 0 4 M 3/56		H 0 4 M 3/56	C 5 K 0 1 5
3/42		3/42	5 K 0 2 4
3/60		3/60	D

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平10-203598

(22) 出願日 平成10年7月17日 (1998.7.17)

(71) 出願人 000232047

日本電気エンジニアリング株式会社

東京都港区芝浦三丁目18番21号

(72) 発明者 三浦 秀樹

東京都港区芝浦三丁目18番21号 日本電気
エンジニアリング株式会社内

(74) 代理人 100082935

弁理士 京本 直樹 (外2名)

Fターム(参考) 5K015 AA00 AD01 AF05 AF08 BA00

GA04 JA00 JA02

5K024 AA01 AA05 AA52 BB00 CC01

CC14 DD01 EE01 FF06 GG01

GG03

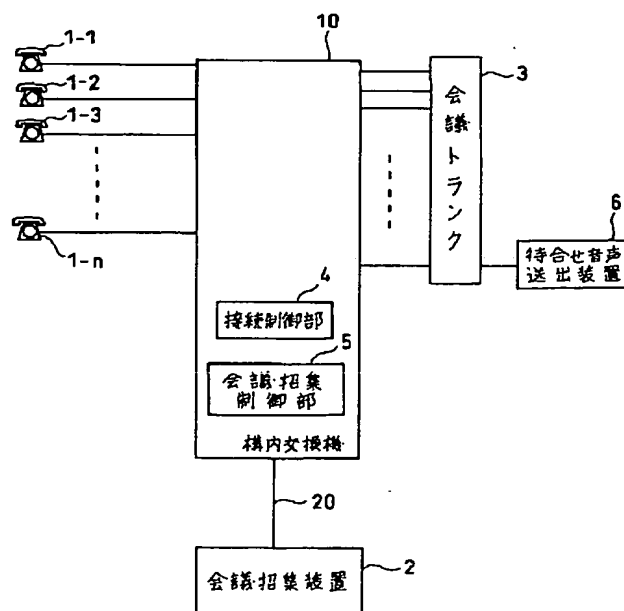
(54) 【発明の名称】 会議システム

(57) 【要約】

【課題】 より自由に会議招集を行うことのできる会議システムを実現する。

【解決手段】 複数の電話機 1-1 ~ 1-n の呼出番号を 1 グループとして会議招集装置 2 に外部から登録しておき、この登録されたグループに属する 1 つの呼出番号の電話機 (例えば、電話機 1-1) からの特番呼出しに応答してそのグループに属する他の全ての電話機 (電話機 1-2 ~ 1-n) を呼出してそのグループに属する全ての電話機間で通話できるようにする。

【効果】 会議招集装置 2 への登録内容を変更することにより、会議の招集者を自由に選択できる。



(2)

【特許請求の範囲】

【請求項1】 複数の電話機の呼出番号を1グループとして外部から登録可能な登録手段と、この登録されたグループに属する1つの呼出番号の電話機からの特番呼出しに応答して該グループに属する他の全ての電話機を呼出す呼出し制御手段とを有し、前記グループに属する全ての電話機間で通話できるようにしたことを特徴とする会議システム。

【請求項2】 前記複数の電話機は内線電話機であり、前記呼出番号は前記内線電話機を呼出すための内線番号であることを特徴とする請求項1記載の会議システム。

【請求項3】 前記呼出し制御手段は前記特番呼出しに
10 応答して前記グループに属する他の全ての電話機を順に呼出し、全ての電話機に対する呼出しが完了するまで既に呼出しが完了した電話機には所定メッセージを送出するメッセージ送出手段を更に含むことを特徴とする請求項1又は2記載の会議システム。

【請求項4】 前記複数の電話機はホテルの客室に夫々設置され、前記登録手段には同一の団体に属する客の客室に設置された電話機の呼出番号が前記グループとして
20 登録されることを特徴とする請求項1～3のいずれかに記載の会議システム。

【請求項5】 前記特番呼出しを行うための番号は、前記ホテルへのチェックイン時に登録されることを特徴とする請求項4記載の会議システム。

【請求項6】 前記特番呼出しを行うための番号は、前記団体の代表者にのみ知らせておくようにしたことを特徴とする請求項5記載の会議システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は会議システムに関し、特に複数の電話機に対して呼出しを行って会議招集を行う会議システムに関する。

【0002】

【従来の技術】従来の会議システムが特開平1-270441号公報に記載されている。同公報に記載されている会議システムは、会議接続機能を有する構内交換機において、会議招集者ごとに異なる加入者クラスを付与し、各加入者クラスに対し、夫々対応付けられた複数の被招集者グループを格納するメモリを有する。会議招集者が会議接続番号をダイヤルしたとき、会議招集者の加入者クラスを識別し被招集者グループの格納されたメモリにアクセスし、会議招集者の加入者クラスに該当する被招集者グループの加入者を読み出し、一斉に呼出す構成である。

【0003】記憶部には複数の被招集者グループ及び各々のグループに対する加入者リストが蓄積されている。ある招集内線が発呼され、会議接続番号をダイヤルした場合、中央処理装置でその招集内線の加入者クラスと会議接続番号とを照合し、会議接続番号をダイヤルした加

2

入者が招集内線であることを確認する。この後、会議接続番号を記憶部に転送し、上記の招集内線に対応付けられている被招集者グループの加入者を読み出す。中央処理装置は、この読み出された加入者リストに該当する被招集者に対し、一斉に呼出しを行い、会議トランクを捕捉し、招集内線と被招集者グループの加入者を接続する。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】上述した従来の会議システムでは、会議接続を行う場合、事前に複数の被招集者グループ及び各々のグループに対する加入者リストを蓄積しておく必要がある。そのため、会議接続を行う場合、毎回同じ加入者での会議しか行うことができないという欠点がある。また、会議を招集する加入者も固定的に決まっているため、他の加入者から会議の招集を行うことができないという欠点がある。

【0005】本発明は上述した従来技術の欠点を解決するためになされたものであり、その目的はより自由に会議の招集を行うことのできる会議システムを提供することである。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明による会議システムは、複数の電話機の呼出番号を1グループとして外部から登録可能な登録手段と、この登録されたグループに属する1つの呼出番号の電話機からの特番呼出しに
30 応答して該グループに属する他の全ての電話機を呼出す呼出し制御手段とを有し、前記グループに属する全ての電話機間で通話できるようにしたことを特徴とする。なお、前記複数の電話機は内線電話機であり、前記呼出番号は前記内線電話機を呼出すための内線番号とする。

【0007】また、前記呼出し制御手段は前記特番呼出しに
35 応答して前記グループに属する他の全ての電話機を順に呼出し、全ての電話機に対する呼出しが完了するまで既に呼出しが完了した電話機には所定メッセージを送出するメッセージ送出手段を更に含む。

【0008】さらに、前記複数の電話機はホテルの客室に夫々設置され、前記登録手段には同一の団体に属する客の客室に設置された電話機の呼出番号が前記グループとして登録される。前記特番呼出しを行うための番号は、前記ホテルへのチェックイン時に登録される。なお、前記特番呼出しを行うための番号は、前記団体の代表者にのみ知らせておくようにする。

【0009】要するに本会議システムは、構内交換機で会議招集装置等の外部装置から会議招集データを受信し、受信した会議招集データに応じて招集内線を呼出し、会議トランクに接続し会議を行うのである。会議招集データにより会議を行うため、会議の招集者を自由に選択することができるのである。

【0010】

【発明の実施の形態】次に、本発明の実施の一形態について図面を参照して説明する。以下の説明において参照

50

(3)

3

する各図においては、他の図と同等部分には同一符号が付されている。

【0011】図1は本発明による会議システムの実施の一形態を示すブロック図である。同図において、本会議システムは、構内交換機10と、この構内交換機10によって相互に接続が行われるn台（nは2以上の整数）の内線電話機1-1～1-nと、特番呼出しに应答して会議招集データ20を送出する会議招集装置2と、会議トランク3とを含んで構成されている。

【0012】会議招集装置2には、会議に招集すべき内線電話機に対応する内線番号が登録されているものとする。この登録内容は、外部キー入力等によって自由に変更できるものとする。

【0013】構内交換機10に会議招集装置2と会議トランク3とが接続されている。構内交換機10は、接続制御部4及び会議招集制御部5を備えている。n台の内線電話機1-1～1-nは、構内交換機10に接続されている。

【0014】かかる構成において、会議招集を行う場合、内線電話機1-1～1-nのうちのいずれかから予め定められている特番呼出しを行う。ここでは、内線電話機1-1が特番呼出しを行ったものとする。

【0015】この内線電話機1-1による特番呼出しに应答して、会議招集装置2は構内交換機10に図2に示されている会議招集データ20を送出する。構内交換機10では、会議招集装置2から受信した会議招集データを会議招集制御部5へ通知する。会議招集制御部5では、受信したデータの分析を行い、会議トランク3を捕捉する。その後、受信データの先頭の内線電話機と会議トランクとの接続を接続制御部4に対して要求する。

【0016】接続制御部4では、要求のあった内線番号の内線電話機の呼出しを行い、会議トランク3と各内線電話機との接続を行う。

【0017】ここで、図2に示されているように、会議招集データは、内線電話機1-1～1-nに対応する内線番号#1～#nによって構成されている。この場合、内線電話機1-1からの呼出しであるため、内線番号#1の次の内線番号#2の内線電話機1-2と会議トランク3との接続が行われる。会議招集制御部5では、内線電話機1-2に続き、内線電話機1-3、そして内線電話機1-nまで順次接続制御部4に対して接続要求を行う。これにより、内線番号#1～#nに対応する全ての内線電話機1-1～1-nの接続が完了し、この接続された状態において会議が行われる。

【0018】ところで、図1に示されているように、会議トランク3には待合わせ音声送出装置6が接続されている。この待合わせ音声送出装置6は、「しばらくお待ち下さい」等、待機の旨のメッセージを送出する装置である。このメッセージの送出は、全ての内線電話機の接続が完了するか、予め定められた待合わせ時間が経過す

4

るまで送出される。つまり、この接続完了又は待合わせ時間経過に应答して、待合わせ音声送出装置6は会議トランク3から切り離される。

【0019】以上のように、本システムでは、登録内容を外部から自由に変更できるので、会議接続を行う場合、毎回同じ加入者での会議しか行うことができないという従来技術の欠点が解決できる。また、会議を招集する加入者が固定的に決まっているわけではないので、複数の加入者のうちの任意の者から会議の招集を行うことができる。

【0020】以下、本システムのより具体的な使用例について説明する。本システムは、例えば、ホテルの各客室の内線電話機について適用することができる。すなわち、ツアー等の団体客がホテルに宿泊した場合、その団体に属する客が宿泊する客室はチェックイン時にわかる。そこで、各団体のチェックイン時に、その団体客（添乗員等の代表者も含む）が宿泊する客室全ての内線番号を1つのグループとし、これを図2のような会議招集データ20として登録しておくのである。この場合ツアー名等、その団体の名称を利用して宿泊客を検索すれば、容易に会議招集データを作成することができる。

【0021】そして、この会議招集装置2への登録完了後、その団体の添乗員等の代表者にのみ特番を教える。こうすれば、その代表者が上述した特番呼出を行うことにより、会議を招集して連絡事項を伝達することができるのである。複数の団体が同時に宿泊する場合には、各団体別々にその団体に属する客全ての客室の内線番号を1つのグループとして登録し、各団体の代表者に特番を教えることになる。

【0022】このような、団体客が宿泊する客室全ての内線番号を予め1つのグループとして登録しておくことにより、その代表者は客室1つ1つの内線番号を調べて呼出す必要はなく、特番呼出を行うだけで連絡事項を容易に伝達することができるのである。この場合、その代表者はその団体に属する全ての客と双方向に会話でき、連絡を行うことができるのである。よって、団体に属する客全てを1つの部屋に招集する必要はなく、各客室において連絡を行うことができるのである。できる。

【0023】なお、小人数の団体等、代表者が決まらない団体については、その団体に属する者全員に特番を教えるても良い。こうしておけば、他の客室の内線番号を調べる必要はなく、任意の者が上述した特番呼出を行うだけで、容易に会議を招集して連絡事項を伝達することができるのである。

【0024】

【発明の効果】以上説明したように本発明は、複数の電話機の呼出番号を1グループとして外部から登録しておき、この登録されたグループに属する1つの呼出番号の電話機からの特番呼出しに应答してそのグループに属する他の全ての電話機を呼出してそのグループに属する全

(4)

5
ての電話機間で通話できるようにすることにより、より自由に会議の招集を行うことができるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

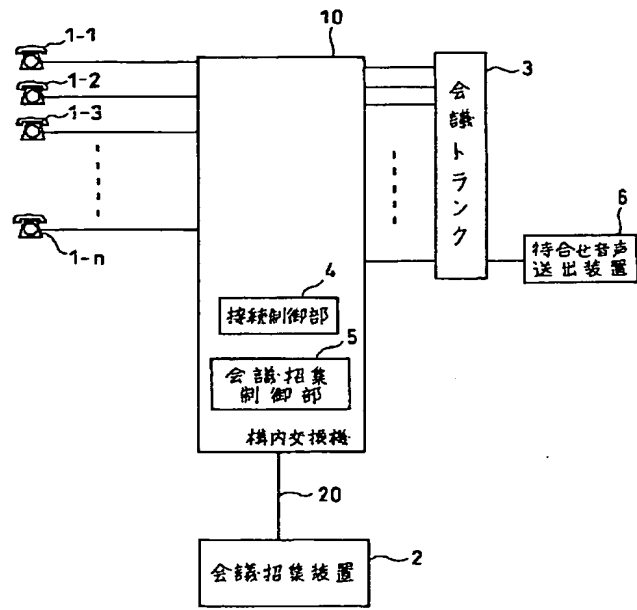
【図1】本発明の実施の一形態による会議システムの構成を示すブロック図である。

【図2】会議招集データの例を示す図である。

【符号の説明】

- 6
1-1～1-n 内線電話機
2 会議招集装置
3 会議トランク
4 接続制御部
5 会議招集制御部
6 待合せ音声送出装置
10 構内交換機

【図1】



【図2】

